



金曾木だより

台東区根岸4-16-22 TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507
<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218>

令和5年度 9月号
台東区立金曾木小学校
校長 細田 儀広
令和5年 9月 1日

「自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 自分の良さを伸ばす子」

気付ける力

校長 細田 儀広

本日より、2学期が始まりました。4年ぶりに行動制限がない夏休みをご家族で過ごされ、楽しい思い出をつくられたことと思います。また、7月は猛暑の中、個人面談にご来校いただき誠にありがとうございました。個人面談を通して学校とご家庭が2学期に目指すお子さんの姿を共有し、協力できたら幸いです。

さて、私は母の病院の付き添いで一緒に電車に乗る機会があります。母は足が不自由なので杖をつけています。電車に乗る時は、あえてシルバーシートのある乗車口で電車を待ち、シルバーシートに座らせるようにしています。ある日、電車が混雑していてシルバーシートはすでに満席でした。しかし、座っている人を見ると半数以上は、まだ私よりも若い会社員や高校生、主婦の方です。さすがに、杖をついた老人が前に立てば席を譲ってくれるだとうと思いきや譲ってくれません。老人の存在に気付かないのか、あえて無視をしているのか分かりませんが、こうした事はめずらしいことではありません。時には、乗車口の先頭で待っていた母を後ろから追い越して、一つしか空いていない席に座ってしまう人すらいます。こうした姿に、私はやりきれない気持ちになります。

少し、話は変わりますが私は大学時代ボランティアをしていました。ボランティア活動で車椅子の人と関わる機会がありました。それまでも、私にとって車椅子の人の存在は特別なものではなかったのですが、活動を通して、車椅子の人の生活について少しですが理解することができました。それ以来、私自身、車椅子の人を町で見かけることが増えたように感じます。それは車椅子の人が増えたわけではなく、ボランティア活動で車椅子の人の想いにふれたことで、その存在に気付けるようになったのだと思います。

先のシルバーシートの話に戻りますが、私は足が不自由な母親がいることで、お年寄りの存在や杖を使っている人の苦勞を身近に感じることができます。しかし、理屈で、「弱者に優しくしなくてはいけない」と分かっている、そうした人と関わったことのない人にとって、その存在や気持ちに、なかなか気付けないのかもしれないと思いました。気付けない原因は、想像力不足(相手の立場に立って考えられない)、自己中心的な考え(他人のことを考える余裕がない)など、様々だと思います。

私たちの生活は、子どもや大人に関係なく、人と人とのつながりや支え合いで成り立っています。車椅子の人の生活を知りたければ、インターネットや動画がたくさんアップされています。しかし、それは知識であって車椅子を利用する人への気付きや自身の行動の変化に直結する効果は小さいような気がします。自分とは違った価値観や生き方をする人に直接ふれ、実際に体験することで、多様な考え方や生き方に気付き、結果として自分の行動が変わるのだと思います。今後も金曾木小学校では、様々な人とのふれあいや体験活動を重視した教育活動を通して、子どもたちの心を育てていきます。

夏休み中、ラジオ体操、盆踊り(夏祭り)と地域の行事に参加させていただき、子どもたちの笑顔とそれを支える町会の皆さんの姿を見ることができました。2学期は創立120周年に伴い行事もたくさんあります。ぜひ、周年行事を通して学校と保護者、地域との絆を深めていきたいです。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

【創立120周年に伴う学校行事】

10月 4日(水) 創立120周年記念児童集会 10月21日(土) PTA主催金曾木フェス
11月11日(土) 金曾木小学校創立120周年記念式典 11月25日(土) 創立120周年記念音楽会